

(様式2)

議事録番号

提出 2013 年 9 月 12 日

## 会合議事録

研究会名：原子分解能ホログラフィー研究会

日 時：2012年9月9日（日） 15:30-17:30

場 所：京都大学 宇治キャンパス本館5階 E-517 防災研究所セミナー室III

(SPring-8シンポジウム2013 のサテライト研究会)

出席者：林好一（東北大）、松下智裕（JASRI）、細川伸也（熊本大）、  
寺井智之（阪大）、大塚真弘（名大）、上坂彰朗（HORIBA）、  
戎宏戎（広島工大）、八方直久（広島市大）

計 8 名

議題：

①SPring-8 に関する議論（JASRI 委託分）

- 1) SPring-8 次期計画に関する事項（国内外の放射光科学のグランドデザインを踏まえた SPring-8 次期計画の位置づけ）
- 2) SPring-8 のビームラインに関する事項（利用研究分野毎に、新規領域の展開や利用ニーズを考慮した既存ビームラインの高度化、及びビームラインの再構築に関する意見）
- 3) 登録機関 JASRI が利用促進のために実施する研究開発に関する事項（新分野、新領域に関する研究開発ニーズの収集、また、研究開発成果の展開について）

②最近の研究に関する情報交換

③今後の方針について

議事内容：

- ① 副代表の松下の司会で、上記の議題について意見収集が行われた。
  - 1) 次期計画について
    - ・ 分光後のフラックスの増大を期待したい。
    - ・ 微小試料の測定のため、輝度の向上が見込める現計画に期待している。積極的に協力したい。
  - 2) ビームラインについて
    - ・ ユーザー持ち込み機器を保管する倉庫を整備してほしい。その際、倉庫スペースの賃料をユーザーが負担してもよい。
    - ・ 固定ビームラインをもたないユーザーのために、かつての BL47XU のような、汎用 BL を整備してほしい。
  - 3) JASRI について
    - ・ JASRI の留保タイムについての質問として理解しすると、取り扱い方の再検討をお願いしたい。現在のやり方では、新規参入実験や固定 BL を持たないユーザーに不利になっている。
  - 4) その他
    - ・ ESRF では、実験中の想定外の事態にも対応して、複数回、同一の実験が受理される場合が多い。同様の対応を期待したい。(SPring-8 では、同一の実験は 1 回だけの採択である。これが、論文の数の低下につながっていることが懸念される。)
- ② 以下の 2 件の講演を行い、意見交換を行った。
  - ・ 松下智裕 (JASRI) 「光電子ホログラフィー理論の最近の進展」
  - ・ 細川伸也 (熊本大) 「Recent topics of XFEL」
  - ・ 林好一 (東北大) 「原子分解能ホログラフィー -将来ビジョン-
- ③ 代表の林より、次回の国際シンポジウム開催を準備していることについての報告があった。